

Abbreviated Translation of JP 4 -51024U(Laid-Open No. 51024/1992)

21. Utility Model Application Number: U2-92237

22. Application Date: August 31, 1990

23. Laid-Open Number: JP4-51024U

24. Laid-Open Date: April 30, 1992

71. Applicant: Itohki Kosakusyo Co., Ltd.

72. Inventor: Kouichi KITADA

(Specification)

1. Title of the Invention

Cord pass-through cap

2. Claims

(1) A cord pass-through cap 1 comprising a cap body 2 to be held in a cord pass-through opening 6 provided in a floor, a desk top plate and so on, a cover body 3 to close a cord pass-through hole 6 in said cap body 2 and a cover piece 5 to close a window 4 formed in said cover body 3, said cover body 3 having sliding guide portions 31 and 31 provided on a lower face of said cover body 3 so as to extend from a both side position of said window 4 toward an inside position of said lower face of said cover body 3 and inclining downwardly toward the inside of said cover body 3 at the position of both sides of said window 4, sliding members 51 and 52 provided forward and rearward of said cover piece 5 on both side thereof and held in a sliding manner in said sliding guide portions 31 and 31, and the forward sliding member 51 formed of spring body held in said sliding guide portions 31 and 31 in a state where a front portion of said cover piece 5 is resiliently urged upward.

## 公開実用平成 4-51024

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平4-51024

⑬ Int. Cl.<sup>5</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成4年(1992)4月30日

H 02 G 3/22  
A 47 B 13/00  
37/00C 8834-5G  
B 8815-3K  
D 8915-3K

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑭ 考案の名称 コード挿通口キャップ

⑮ 実 願 平2-92237

⑯ 出 願 平2(1990)8月31日

⑰ 考 案 者 北 田 弘 一 大阪府大阪市城東区今福東1丁目4番18号 株式会社伊藤  
喜工作所内

⑱ 出 願 人 株式会社伊藤喜工作所 大阪府大阪市城東区今福東1丁目4番18号

⑲ 代 理 人 弁理士 柳野 隆生



## 明 細 書

### 1. 考案の名称

コード挿通口キャップ

### 2. 実用新案登録請求の範囲

- 1) 床面又は机天板等のコード挿通口に嵌合保持されるキャップ本体と、前記キャップ本体のコード挿通孔を閉塞する蓋体と、前記蓋体に形成した窓孔を閉塞する蓋片と、よりなり、前記蓋体下面に窓孔両側位置から蓋体下面奥方に向かう摺動案内部を設け、且つ窓孔両側位置においては奥方に向かって前下がり状に傾斜させて形成してなり、蓋片両側の前後に前記案内部に摺動自在に保持される摺動部材を設け、且つ前側の摺動部材をバネ体にて構成して蓋片前部を上方へ弾性付勢した状態で摺動案内部に摺動自在に保持してなることを特徴とするコード挿通口キャップ。

### 3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は、室内の床面やOA机等に設けられるコード挿通口のキャップに関するものである。

〔従来の技術〕

通常、上記のようなコード挿通口のキャップは、コード挿通口を閉塞する蓋体に分離可能な蓋片を設けてなり、蓋片を蓋体から取り外すことでコード挿通位置を確保するとともに、蓋体自体をコード挿通口から取り外すことでより広いコード挿通部分を確保可能としてなる。例えばこのようなコード挿通口のキャップとして実公昭62-6813号公報に記載のものがある。これは、コード挿通孔に嵌合保持される保持ケースのコード挿通孔を閉塞するキャップ本体を分離可能なメインキャップとサブキャップとから構成し、サブキャップの後端部に差込ガイドを延長して設け、且つメインキャップ下面にサブキャップの差込ガイドを支持するガイド支持部材を設けてなり、サブキャップが不要となったときにはこれを裏返して差込ガイドをメインキャップ下面の支持部材に反対方向から差し込むことによりメインキャップの下面に積層状態に収納可能としてなるものである。

〔考案が解決しようとする課題〕

上記のコード挿通孔キャップは、サブキャップをメインキャップから分離することで挿通孔におけるコード挿通位置を確保するとともに、メインキャップを保持ケースから取り外すことで広いコード挿通部分を確保可能としてなり、又、前記の如くメインキャップから分離したサブキャップをメインキャップ下面に収納することでサブキャップが散逸することを防止するものであるが、このサブキャップをメインキャップから分離してその下面に収納するには、サブキャップとメインキャップとを共に一担保持ケースから取り外してサブキャップをメインキャップから分離した後、これをメインキャップ下面の支持部材へ差し込み、再びメインキャップを保持ケースに取り付けるといった操作が必要であった。更にサブキャップをメインキャップ下面に収納する際には、メインキャップからサブキャップを分離して再びメインキャップ下面の支持部材に差し込んで収納するものであるから、メインキャップから分離したサブキャップが散逸する危険もあった。

本考案は上記の点に鑑み、コード挿通口のキャップとして、コード挿通口を閉塞する蓋体の窓孔に設けた蓋片を、蓋体をコード挿通口に取り付けたままの状態、且つ蓋体から分離することなく蓋体下面に収納することで、蓋片を散逸することなく蓋体の窓孔部分を開放してコード挿通位置を確保可能としてなるコード挿通口キャップを提供せんとするものである。

(課題を解決するための手段)

本考案に係るコード取出口キャップは上記の目的を達成するために、床面又は机天板等のコード挿通口に嵌合保持されるキャップ本体と、前記キャップ本体のコード挿通孔を閉塞する蓋体と、前記蓋体に形成した窓孔を閉塞する蓋片と、よりなり、前記蓋体下面に窓孔両側位置から蓋体下面奥方に向かう摺動案内部を設け、且つ窓孔両側位置においては奥方に向かって前下がり状に傾斜させて形成してなり、蓋片両側の前後に前記案内部に摺動自在に保持される摺動部材を設け、且つ前側の摺動部材をバネ体にて構成して蓋片前部を上方

へ弾性付勢した状態で摺動案内部に摺動自在に保持してなるものである。

〔作用〕

本考案に係るコード挿通口キャップは上記のとおり構成してなり、コードを挿通するときには、蓋体の窓孔を閉塞する蓋片の前部を下方へ押圧するとともに案内部に沿って蓋体下面の奥方へ摺動させて蓋片を蓋体下面へ収納して窓孔を開放し、この窓孔部分にコードを挿通する。又、更に広い挿通部分を必要とする場合には、キャップ本体のコード挿通孔を閉塞してなる蓋体をキャップ本体から取り外すことでコード挿通孔を完全に開放すればよい。

〔実施例〕

以下、図示した実施例に基づき本考案を更に詳細に説明する。

第1図は本考案に係るコード挿通口キャップ1の一実施例の斜視図であり、このコード挿通口キャップ1は、室内の床面又はOA机の天板等のコード挿通口に嵌合保持される円筒状のキャップ本

体 2 と、このキャップ本体 2 のコード挿通孔 6 を閉塞する円板状の蓋体 3 と、この蓋体 3 に摺動自在に取り付けられ、蓋体 3 に設けた窓孔 4 を閉塞する蓋片 5 とから構成されている。

そして前記コード挿通口キャップ 1 にコードを挿通するには、第 2 図の如く蓋体 3 に取り付けた蓋片 5 を蓋体 3 下面奥方へ摺動させて蓋体 3 下面に重合状態に収納することで窓孔 4 部分を開放し、ここからコードを挿通可能とする。更に広いコード挿通部分を必要とする場合には、第 3 図の如く蓋体 3 を蓋片 5 とともにキャップ本体 2 から取り外すことでキャップ本体 2 におけるコード挿通孔 6 を完全に開放すればよい。

前記キャップ本体 2 は机天板 7 等に設けたコード挿通口 71 に嵌合する筒状胴部 21 の上端外周縁にコード挿通口 71 の開口縁に係止する鑿部 22 を設けてなり、コード挿通孔 6 としての前記胴部 21 の上端開口内周縁に設けた環状段部 23 に蓋体 3 の周縁部を保持してコード挿通孔 6 を閉塞してなる。

前記キャップ本体 2 のコード挿通孔 6 を閉塞し



てなる蓋体 3 は、その一部を切欠して窓孔 4 を形成してなり、蓋体 3 の下面には前記窓孔 4 の両側位置から蓋体 3 下面奥方へ延びる一对の摺動案内部分 31、31 を設けてなり、且つ前記摺動案内部分 31、31 における窓孔 4 両側に位置する部分 31a、31a は前下がり状に傾斜して形成するとともに蓋体 3 下面奥方へ向けて蓋体 3 の下面に平行 31b、31b に延設している。

前記蓋体 3 に摺動自在に装着して蓋体 3 の窓孔 4 を閉塞してなる蓋片 5 は、その前後両側に設けた摺動部材 51、52 により蓋体 3 下面に設けた摺動案内部分 31、31 に沿って摺動して蓋体 3 の窓孔 4 を閉塞し、且つ窓孔 4 を開放して蓋体 3 下面に重合した状態に収納されるものである。そして、前側の摺動部材 51 は蓋片 5 に下設した基部 53 の上部から両側下方へ湾曲した板バネを用い、又、後側の摺動部材 52 は、蓋片 5 下面両側に下設した縦片 54、54 から略水平側方へ杆状のピン 52、52 を突設してなり、窓孔 4 を閉塞した状態では蓋片 5 の前部に延設して設けた係止片 55 が窓孔 4 の開口縁に係止

した状態で前記板バネ51先端部が前記摺動案内内部31の水平部分31b上に位置して蓋片5の前部を上方へ弾性付勢し、且つ後側のピン52は摺動案内内部31の傾斜部分31aの頂部に保持される。

上記のように構成してなる本考案に係るコード挿通口のキャップ1は、コードを挿通しない場合には、蓋体3の窓孔4を蓋片5が閉塞して蓋体3と蓋片5とが同一平面を構成して机天板7等におけるコード挿通口71を閉塞している（第4図（イ））。そしてコードを挿通させるには、蓋片5の前部を板バネ51の付勢力に抗して下方へ蓋片5の前部上面が蓋体3の下面より低くなるように押圧する（第4図（ロ））とともに、これを前方へ摺動させることで蓋片5は蓋体3下面の摺動案内内部31、31に沿って蓋体3の下面奥方へ蓋片5の先端が蓋体3下面の摺動案内内部31の終点位置に設けたストッパ32に当接するまで移動させることにより、窓孔4を開放するとともに蓋片5が両側の摺動案内内部31、31間に保持された状態で蓋体3下面に重合状態に収納される。又、この蓋片5にて窓孔4

を閉塞するには、前記蓋片 5 を後方へ摺動させることで再び蓋片 5 にて蓋体 3 の窓孔 4 が閉塞される。

上記のように本考案に係るコード挿通口キャップ 1 によれば、蓋体 3 の窓孔 4 を閉塞してなる蓋片 5 の前部を板バネ 51 を用いて上方へ弾性付勢した状態で蓋体 3 下面に設けた摺動案内 31 に保持してなるから、この蓋片 5 を蓋体 3 下面へ収納するには単に蓋片 5 の前部を下方へ押圧してこれを前方へ摺動させるだけでよく、しかも、この操作は蓋体 3 をキャップ本体 1 に装着したままで行うことができ、しかも、従来の如く蓋片 5 を蓋体 3 からとり外す必要がなく蓋片 5 が散逸する恐れがなく、又、蓋片 5 を蓋体 3 下面に収納する操作も極めて簡単に行うことができる。更には、蓋体 3 に摺動可能に取り付けた蓋片 5 の摺動部材として、その前側の摺動部材 51 のみを板バネにて作成して蓋片 5 を蓋体 3 下面の奥方へ摺動可能とするとともに、蓋体 3 下面の摺動案内 31 を窓孔 4 両側位置においては前下がりの傾斜状に形成して後側の

摺動部材52はこの傾斜部分31aの頂部に位置させてなるから、蓋片5が蓋体3の窓孔4を閉塞している状態では蓋片5の後部が下方へ押されても沈み込むことがなく、確実な閉塞状態を維持しうるのである。

第7図のものは、上記コード挿通口キャップ1の他実施例を示すものであり、ここでは蓋体3の窓孔4を閉塞してなる蓋片5を常に窓孔4を閉塞する方向へバネ9等にて弾性付勢してなり、コードを挿通しないときには蓋片5が確実に窓孔4を閉塞するとともに、コード挿通時にもコード挿通部分のみ窓孔4を開放可能としてなるのである。

尚、キャップ本体2や蓋体3の形状は上記実施例に限らず角形、楕円形等任意の形状とすることもでき、又、図例の実施例では窓孔4を蓋体3の端部を切欠して設けているが、この窓孔4を蓋体3の中央位置に設けるようにしてもよい。

〔考案の効果〕

上記の如く、本考案に係るコード挿通口のキャ

ップによれば、キャップ本体の挿通孔を閉塞する蓋体に窓孔を設け、この窓孔を閉塞する蓋片を蓋体下面における奥方へ摺動させて蓋体下面に重合した状態で収納可能としたことにより、蓋片を蓋体から分離することなく蓋体の窓孔を開放してコード挿通位置を確保でき蓋片を散逸する恐れがなく、又、この蓋片を蓋体下面に収納する際には、従来の如く蓋体をキャップ本体から取り外すことなく蓋片の前部を下方へ押圧してこれを蓋体下面奥方へ摺動させるだけの極めて簡単な操作で行うことができる。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案に係るコード挿通口キャップの一実施例の斜視図、第2図は窓孔を開放した状態のコード挿通口キャップの斜視図、第3図は蓋体を取り外したキャップ本体のみの斜視図、第4図（イ）～（ハ）は前記コード挿通口キャップの側断面図で、（イ）は窓孔を閉塞した状態、（ロ）は蓋片前部を下方へ押圧して窓孔を開放する様子、（ハ）は窓孔を開放した状態をそれぞれ示し、第

# 公開実用平成 4—51024

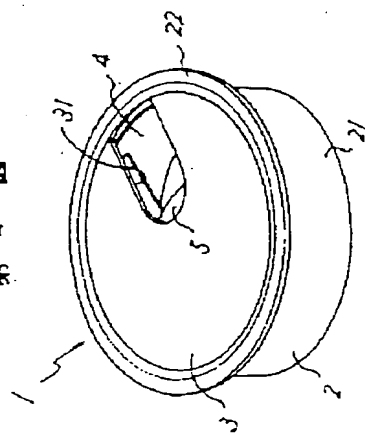
5 図（イ）（ロ）は前記コード挿通口キャップの正断面図であり、（イ）は窓孔を閉塞した状態、（ロ）は窓孔を開放した状態をそれぞれ示し、第 6 図（イ）（ロ）は前記コード挿通口キャップの底面図であり、（イ）は窓孔を閉塞した状態、（ロ）は窓孔を開放した状態をそれぞれ示し、第 7 図はコード挿通口キャップの他実施例の側断面図ある。

1 : コート挿通口キャップ、2 : キャップ本体、3 : 蓋体、4 : 窓孔、5 : 蓋片、6 : コード挿通孔、7 : 机天板、9 : バネ、21 : 胴部、22 : 鋳部、23 : 段部、31 : 摺動案内部、32 : ストッパー、51 : 板バネ、52 : ピン、53 : 基部、54 : 縦片、55 : 係止片。

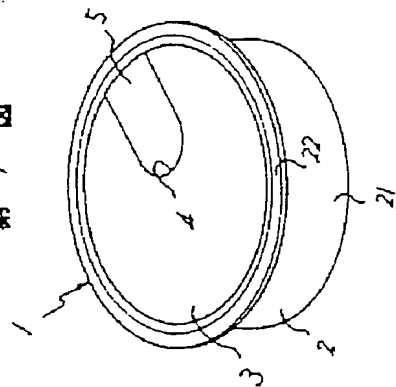
実用新案登録出願人 株式会社 伊藤喜工作所  
代理人 井理士 柳 野 隆 生



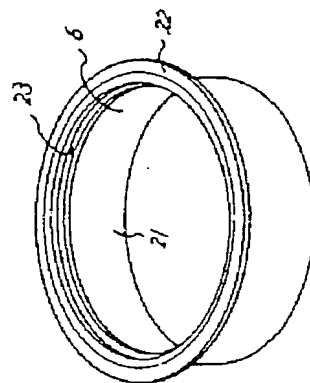
第 2 図



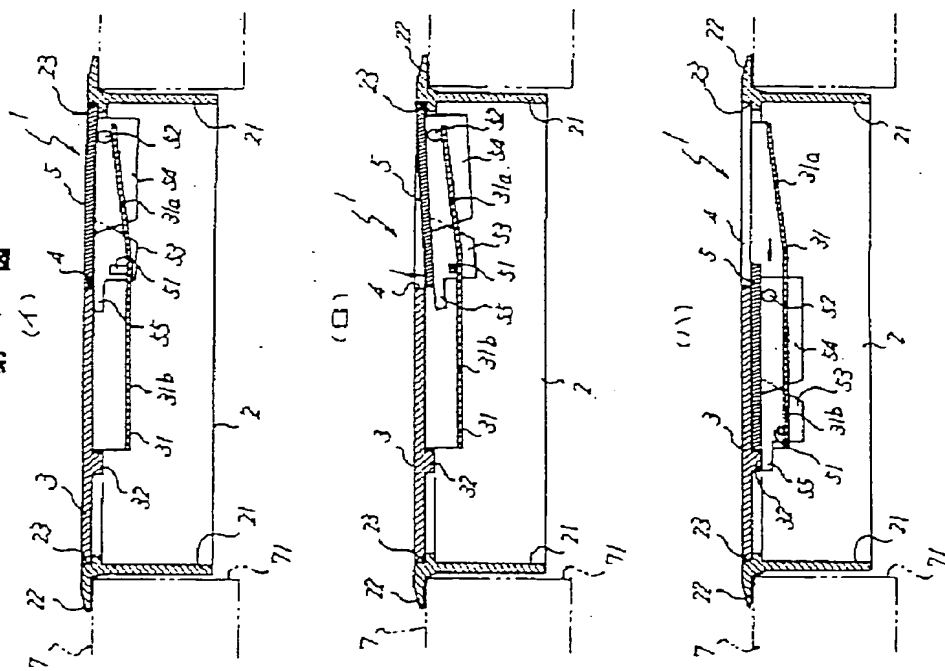
第 1 図



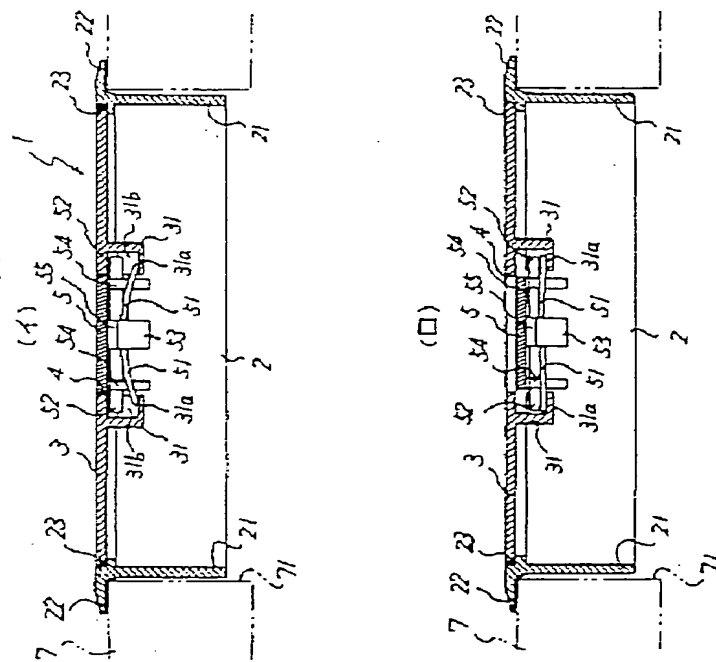
第 3 図



第 4 図



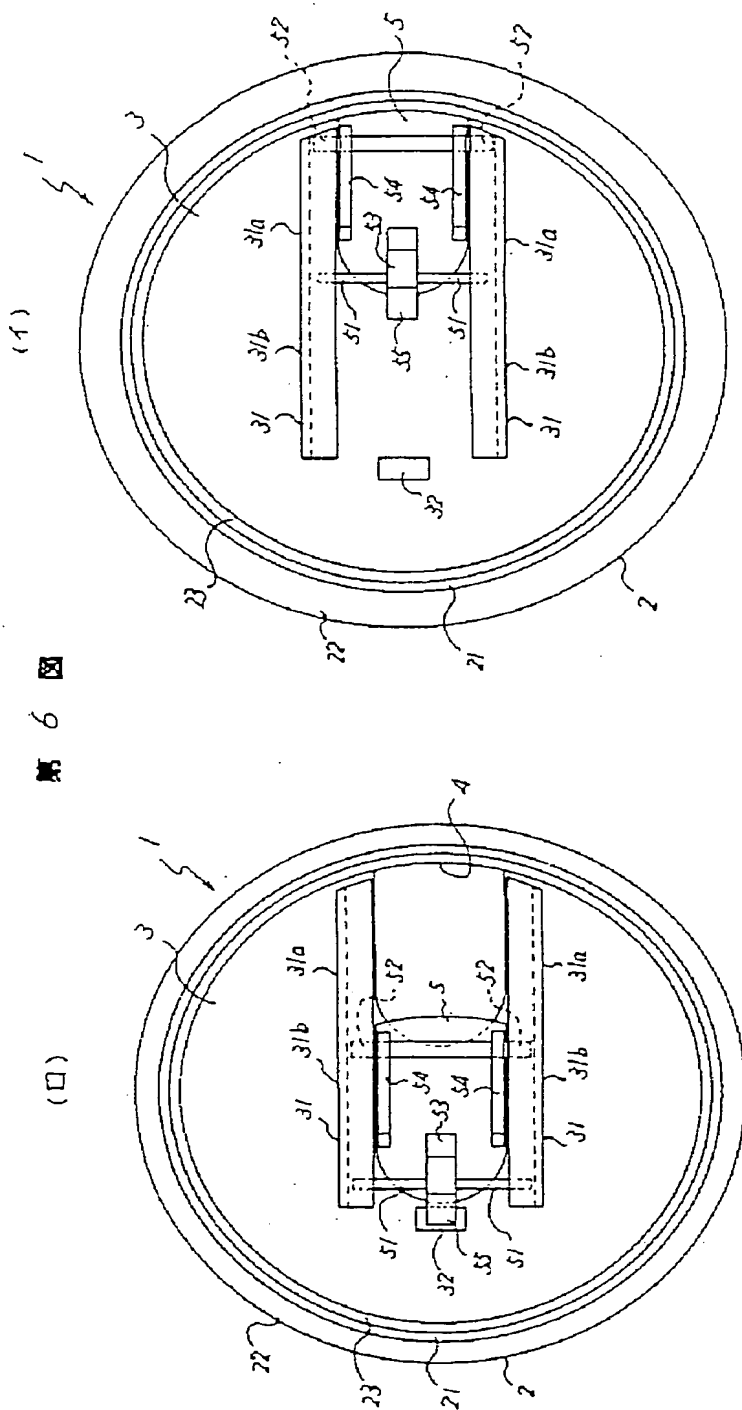
第 5 図



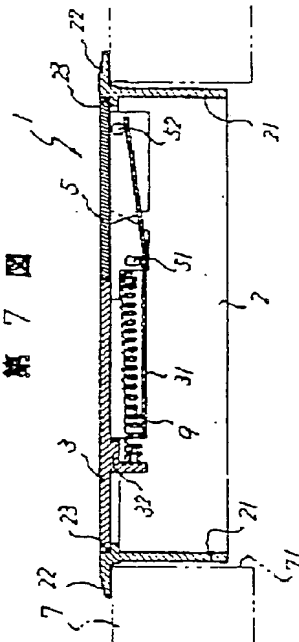




第 6 図



第 7 図



300

代理人 井理士 柳野 隆生

昭和 44 年 11 月 24 日

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☒ FADED TEXT OR DRAWING
- ☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☒ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**